

～より多くの方に愛される美術館に～

平成 30 年度 横須賀美術館 事業計画書

～より多くの方に愛される美術館に～

横須賀美術館 事業計画書の目次

Ⅰ 横須賀美術館の概要

① 横須賀美術館の設立経緯

② 横須賀美術館の収蔵品

平成 30 年（2018 年）4 月

横須賀美術館

Ⅱ 横須賀美術館の事業計画

① 横須賀美術館の収蔵品の調査・整理

② 横須賀美術館の収蔵品の展示・販売

③ 横須賀美術館の収蔵品の調査・整理

④ 横須賀美術館の収蔵品の展示・販売

平成 30 年度 横須賀美術館事業計画

～より多くの方に愛される美術館に～

横須賀美術館は、美術を通じた様々な機会を提供し、市民の美術に対する理解と親しみを深めることを目的に平成 19 年に開館しました。そして今日まで、国内外の優れた美術を紹介する企画展、約 5,000 点のコレクションを紹介する所蔵品展や谷内六郎展、教育普及に資する事業を展開し、一つの目標である観覧者数 10 万人を毎年度達成してきました。

12 年目を迎える平成 30 年度は、これまでの活動を継続し横須賀美術館らしさを感じられるような各種展覧会、ワークショップやボランティアイベント、学校教育との連携、障害のある方などに向けた福祉的な活動を進めます。また、美術館の重要な使命である収蔵品の収集管理や、美術館活動の基礎となる調査研究に絶えずしっかりと取り組みます。

加えて、博物館や図書館など本市の社会教育機関との交流を深め、相互に事業の効果が高まるよう連携を促進します。

そして、毎年度の美術館運営評価の結果を次年度以降の美術館運営に生かし、当館が掲げる使命を果たしていくことで、市民に愛され地域に親しまれる美術館を目指してまいります。

◎横須賀美術館の使命・目標

I 美術を通じた交流を促進する

- ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。
- ② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

II 美術に対する理解と親しみを深める

- ③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。
- ④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。
- ⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

III 訪れるすべての人に安らぎの場を提供する

- ⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。
- ⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。
- ⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って、効率的に運営・管理する。

I 美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

【事業計画】

1 展覧会の実施

「広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」ための事業の要は企画展です。今年度も、社会教育施設としての役割と交流拠点としての役割を認識し、バランスを考慮した企画展を実施します。

展覧会及び観覧者数（見込）

展覧会名		会期	観覧者数(人)	備考
企画展	青山義雄展 きらめく航跡をたどる	4/1-4/15	2,000	H29 事業
	集え！英雄豪傑たち	4/28-6/17	18,000	
	三沢厚彦 ANIMALS IN YOKOSUKA	6/30-9/2	30,000	
	モダンアート再訪 ミロ、ダリ、ウォーホルから草間彌生まで 福岡市美術館コレクション展	9/15-11/4	20,000	
	矢崎千代二 絵の旅	11/17-12/24	5,000	
	第71回児童生徒造形作品展	1/12-1/28	14,000	
	野口久光 シネマ・グラフィックス	2/9-3/31	9,000	
所蔵品展のみの期間		上記以外	6,000	
計			104,000	

2 広報・集客促進事業

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

(1) 訴求活動による集客促進

- ・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース
- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信
- ・公共交通機関への広告掲出
- ・ホームページ、ツイッター、フェイスブックを活用した情報発信
- ・インバウンド推進のための外国語情報発信の拡充

(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

- ・コンサート等、各種イベントの開催
- ・年間パスポート、前売券の販売

(3) 外部連携による集客推進

①他部局との連携

- ・カレーフェスティバルなどイベント参加による情報発信
- ・ヨコスカサークルバスへの参加など米海軍横須賀基地在住者の誘致
- ・本市社会教育施設等と連携した情報発信、広報

②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信
- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施
- ・京急電鉄との連携による「よこすか満喫きっぷ」の利用促進

③近隣地域との連携

- ・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加
- ・観覧ツアーなど美術館活動による交流の実施
- ・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催
- ・地域での消費活動を促進する取り組みの検討

(4) 団体集客の推進

- ・市内民間事業者と連携した企画（ツアープランなど）の検討、提案
- ・旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致
- ・ウェルカムトークの実施

(5) 商業撮影の受入と誘致

- ・ドラマや映画、雑誌等の商業撮影の受入
- ・撮影者側のニーズに対応した誘致の実施

【達成目標】 年間観覧者数 100,000 人以上

[目標設定の理由]

- ・「横須賀市立美術館基本計画」（平成12年6月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を10万人と推定し、開館後の実績としても初年度を除き10万人前後で推移しています。
- ・そのため当館では、まず観覧者目標を10万人以上とし、展覧会内容のバランスを考えながら展覧会を決定しています。
- ・一方、観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

年間観覧者見込みに対する達成状況

(単位：人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
見込み (A)	104,000	109,000	109,000
実績 (B)	114,861	108,413	118,370
達成率 (B/A×100)	110.4%	99.5%	108.6%

【実施目標】

- ・ 様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
- ・ 各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
- ・ 外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
- ・ 旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
- ・ 商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。

【目標設定の理由】

- ・ 横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市の観光立市の推進という観点からも重要になります。
- ・ 市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。
- ・ 広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。
- ・ そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどのSNSを活用していきます。

施策	対象	実施	実施時期	備考
(育英奨励)関係	関係機関	見学・体験・講座 土曜・日曜・祝日 ※要予約	土曜・日曜・祝日 10:00～16:00 ※要予約	(1)
(育英奨励)関係	関係機関	見学・体験・講座 土曜・日曜・祝日 ※要予約	土曜・日曜・祝日 10:00～16:00 ※要予約	(2)
(育英奨励)関係	関係機関	見学・体験・講座 土曜・日曜・祝日 ※要予約	土曜・日曜・祝日 10:00～16:00 ※要予約	(3)
(育英奨励)関係	関係機関	見学・体験・講座 土曜・日曜・祝日 ※要予約	土曜・日曜・祝日 10:00～16:00 ※要予約	(4)
(育英奨励)関係	関係機関	見学・体験・講座 土曜・日曜・祝日 ※要予約	土曜・日曜・祝日 10:00～16:00 ※要予約	(5)

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

【事業計画】

美術館ボランティア活動の推進

ボランティアが美術館の活動を支援することで、自らのやりがいを見出し、市民の美術への親しみを増す一助となるとともに、市民の交流の場となることを目指し、ボランティア活動の推進を図ります。あわせて、ボランティア自身の美術への理解を深めるための育成を行います。

- (1) ギャラリートーク (GT) ボランティア 年 87 日
所蔵品展のギャラリートークを行います。(約 65 回)
* ボランティアを募集し、研修を実施します。(14 回)
* 所蔵品展のレクチャーを実施します。(4 回)
* ボランティアの自主研修を補助します。(4 回)
- (2) 小学生美術鑑賞会ボランティア 年 52 日
小学生美術鑑賞会で来館する小学 6 年生の受入れ、鑑賞補助をします。(約 46 回)
* ボランティアを募集し、研修を実施します。(1 回)
* 企画展のレクチャーを実施します。(5 回)
- (3) みんなのアトリエボランティア 年 12 日程度
障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の補助をします。
* ボランティアを募集します。
- (4) プロジェクトボランティア 年 30 日程度
海の広場などを活用した誰でも参加できるイベントを、ボランティアが自ら企画・準備・運営します。
時期：春、夏、冬の 3 回
* ボランティアを募集し、原則として毎月 2 回会議を行います。
- (5) プロジェクト当日ボランティア 年 3 日程度
ボランティアイベント実施の補助をします。

美術館ボランティアの活動日等一覧

	活動日	募集	研修	任期
(1)	GT: 毎週日曜日と祝日(土曜日を除く) 研修: 原則として木曜日	隔年 4～5 月 * 30 年度は募集	年間 15 回	1 年間(更新有)
(2)	6 月～3 月の平日 研修: 木曜日	毎年 4～5 月 * 30 年度は募集	年間 7 回	1 年間(更新有)
(3)	毎月第 3 土曜日	随時	なし	1 年間(更新有)
(4)	原則として毎月第 2・4 土曜日、イベント準備日・開催日	随時	なし	1 年間(更新有)
(5)	年 3 回	イベントごと	なし	イベント当日限り

【達成目標】 市民ボランティアの活動者数および協働事業への参加者数延べ 2,400 人

〔目標設定の理由〕

- ・活動者数および協働事業への参加者数は、「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標のひとつとなるものです。
- ・平成 30 年度は、ギャラリートークボランティア、小学生美術鑑賞会ボランティアともに新規募集するため、研修の回数は 29 年度より多くなります。
 - *ギャラリートークボランティア登録者数 16 名（平成 30 年 1 月末時点）
 - *小学生美術鑑賞会ボランティア登録者数 17 名（平成 30 年 1 月末時点）
- ・みんなのアトリエボランティアの登録者数自体は増えていますが、アトリエ参加者の定員数に対し、ボランティアは 2～3 名と決まっているので、活動自体は横ばいとなっています。
 - *みんなのアトリエボランティア登録者数 15 名（平成 30 年 1 月末時点）
- ・平成 30 年度は秋にイベントを行わないため、29 年度と同等となることが予測されます。
 - *プロジェクトボランティア登録者数 15 名（平成 30 年 1 月末時点）
- ・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、平成 30 年度の目標は、延べ 2,400 人とします。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数

(単位：人)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 (目標)
ギャラリートークボランティア	284	334	338	330
小学生美術鑑賞会ボランティア	180	263	197	200
みんなのアトリエボランティア	20	34	21	20
プロジェクトボランティア	210	283	272	200
プロジェクト当日ボランティア	38	27	49	30
小計	732	941	877	780
ギャラリートーク参加者	274	371	453	320
ボランティアイベント参加者	1,142	1,350	1,363	1,300
小計	1,416	1,721	1,816	1,620
計	2,148	2,662	2,693	2,400

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
- ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

【目標設定の理由】

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。
- ・ボランティア活動がより広がるよう努めていきます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動の周知や、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのように、美術館主体の事業に関わっている活動の充実などを検討していきます。

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
ボランティア総数	250	270	280	290
小学生美術鑑賞会ボランティア	100	120	130	140
みんなのアトリエボランティア	50	60	70	80
ギャラリートークボランティア	100	110	120	130
その他	100	120	130	140
ボランティア総数	250	270	280	290
小学生美術鑑賞会ボランティア	100	120	130	140
みんなのアトリエボランティア	50	60	70	80
ギャラリートークボランティア	100	110	120	130
その他	100	120	130	140

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

【事業計画】

1 展覧会事業

優れた美術品を展示し、感動と思索を得る場を提供します。

(1) 企画展…幅広い関心にこたえるため、特定のテーマによる展示を自主事業として、6回開催を予定しています。平成30年度は春には「集え！英雄豪傑たち」、夏には子どもから大人まで人気のある彫刻家・三沢厚彦による個展を準備しています。秋には質の高いコレクションを有する福岡市美術館の近代美術の展覧会「モダンアート再訪」を、他に横須賀ゆかりの画家である矢崎千代二展、映画ポスターを数多く手がけた野口久光展、そして、毎年開催している「児童生徒造形作品展」を予定しています。

① 集え！英雄豪傑たち

4月28日(土)～6月17日(日)

- ・江戸の浮世絵から近代の武者絵を中心に現代作家まで、各時代の要求や人々の憧れ、作家独自のストーリーや人物の解釈などによって、時を越えて表された英雄豪傑たちをご覧ください。

② 三沢厚彦 ANIMALS IN YOKOSUKA

6月30日(土)～9月2日(日)

- ・日本を代表する現代彫刻家として知られる三沢厚彦は、2000年から様々な動物をほぼ原寸大で彫りだして彩色した「Animals」シリーズの制作を続けています。新作を含む木彫作品と、絵画、ドローイングを展示し、三沢作品の魅力をご紹介します。

③ モダンアート再訪―ダリ、ウォーホルから草間彌生まで 福岡市美術館コレクション展

9月15日(土)～11月4日(日)

- ・シャガール、ミロ、ダリ、デルヴォー、レオナール・フジタなど、ヨーロッパで活躍した20世紀の巨匠たちに加え、抽象表現主義やポップ・アート、現代美術の名品まで、日本屈指の質と規模を誇る福岡市美術館所蔵のモダンアートから約60点を選びすぐにご紹介します。

④ 矢崎千代二 絵の旅

11月17日(土)～12月24日(日)

- ・横須賀に生まれた矢崎千代二(1872-1947)は世界各地を旅し、速写性、携行性にすぐれたパステルによって、光にうつろう一瞬をとらえた風景画を描きました。近年の研究成果を集約し、あらためて地域ゆかりの作家を紹介します。

⑤ 第71回児童生徒造形作品展

平成31年1月12日(木)～1月28日(月)

- ・市立の幼、小、中、高、ろう、養護学校すべてより選抜された子どもたちが日ごろの授業でつくり上げた平面作品・立体作品など約3,000点を展示します。

⑥ 生誕110年 野口久光 シネマ・グラフィックス

2月9日(土)～3月31日(日)

- ・戦前・戦後にかけて東和商事(後の東宝東和)に所属し、数々のヨーロッパ映画のポスターを描いた野口久光(1909-1994)。本展では、映画ポスターのほか、屈指のジャズ評論家としても活躍した野口がデザインしたレコードジャケットやジャズジャイアントの肖像など、多岐にわたる仕事を紹介します。

(2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展・・・年4回開催

① 第1期所蔵品展 4月7日(土)～7月8日(日)

特集:金沢重治

② 第2期所蔵品展 7月14日(土)～9月30日(日)

特集:中園孔二展 外縁ー見てみたかった景色

③ 第3期所蔵品展 10月6日(土)～12月16日(日)

特集:創立120周年記念 日本美術院の画家たち

④ 第4期所蔵品展 12月22日(土)～平成31年4月14日(日)

特集:三木弘

2 教育普及事業

知的好奇心の育成と充足の機会を提供します。

(1) 展覧会関連の外部講師による講演会の開催 6回

展覧会を深く理解できるよう、外部講師による講演会を開催します。

- ・開催:土日 定員:各70名程度(先着制)

(2) ワークショップの開催 7回

美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるよう、多様なテーマによるワークショップを開催します。

- ・展覧会に関連したワークショップ 4回
- ・大人向けワークショップ 3回
- ・開催:土日 定員:各20名程度(事前申込制)

(3) 映画上映会の開催 2回

優れた映像美術に触れ、多様な表現に親しむことのできる映画会(シネマパーティー)を開催します。

- ・開催:年2回 定員:30名×2回(事前申込制)

(4) 学芸員による企画展ギャラリートーク 5、6回

展覧会の趣旨や見どころ、主要作品の解説など展覧会を深く理解していただくことを目的として開催します。

- ・企画展毎に1、2回程度 開催:適宜(当日自由参加)

(5) 学芸員による展覧会観覧の案内・解説

随時

学生・グループなど、観覧にあわせ展覧会をより楽しく観覧できるよう要望に応じて、展覧会の案内・解説を行います。

また、市内社会教育施設と連携し、必要に応じて市民大学講座などで展覧会や所蔵作品等の講義を行います。

3 美術図書室運営事業

美術図書等約3万冊を揃えた図書室を運営し、利用者サービスをはじめ、美術への興味や理解が深まる場を提供します。

(1) 所蔵資料の充実

- ・一般的な美術書、子ども向けの美術入門書、展覧会に関連する資料を収集し、幅広い層の利用が可能な蔵書の構築に努めます。
- ・貴重な美術雑誌の欠号補充(古書購入)と補修をし、利用と保存に適した状態にします

(2) 所蔵資料に関する情報提供

- ・受入れた資料を速やかにデータベースに登録し、来館者が利用する蔵書検索端末に反映させます。
- ・展覧会の開催にあわせ、所蔵資料の紹介を行います。

4 調査・研究

- ・横須賀ゆかりの作家や所蔵作品に関連する情報を収集し、作品の調査・研究を行います。
- ・調査した内容を展覧会等に還元します。

【達成目標】企画展の満足度 80%以上※

【目標設定の理由】

- ・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。またその満足度の内訳は「作品」「観覧料」「配置・見やすさ」「解説・順路」「心的充足」を計っていて、その総合数値を出しています。
- ・満足度の内訳を見ていくと、「観覧料」「解説・順路」の内の順路については、満足度を上げていくことには限界があり、「作品」「配置・見やすさ」そして解説について改善の余地があります。
- ・ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Aの観覧者数をA(人)、企画展Aの満足度をa(%)とすると、年度ごとの満足度(%)は

$$(Aa + Bb + Cc + Dd + Ee + Ff) / (A + B + C + D + E + F)$$

で表します。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
企画展満足度	84.6%	87.0%	88.0%	89.6%

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
- ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。
- ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
- ・美術への興味や理解が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を収集し、図書室で整理・保管し利用者の閲覧に供する。
- ・資料の分類や配架を工夫し、快適に利用できる図書室環境の維持に努める。
- ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

〔目標設定の理由〕

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展及び谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。